

恋愛論の100年

平成9年1月7日～2月15日

「恋愛」ときくと、誰しも照れくさいような、ごく個人的な感情を想起しがちですが、その歴史がさまざまな世相を反映し変遷してきたことをご存じでしょうか。自由恋愛をめぐって論争がおきた時代、心中が流行した時代、純潔教育がなされた時代、と今からは考えられないような歴史があるのです。今回の展示では、当館所蔵の様々な「恋愛論」—恋愛を論じた書物—をもとに、明治以降の「恋愛」観の歴史を通観し、この個人的かつ社会的な問題を考えたいと思います。

展示資料一覧

<>内は当館請求記号

♥恋愛の福音

明治維新とともに輸入されたさまざまな欧米文化のうち、英語の Love は「恋愛」と翻訳されてしだいに定着していった。そのため、この時期の恋愛論は欧米文学、キリスト教の影響を強くうけているのが特徴である。

1. 北村透谷「厭世詩家と女性」

女学雑誌 303号

<Z23-120複製>

東京 女学雑誌社 1891(明治25)

「恋愛は人世の秘鑰なり」(鑰とは鍵の意)ではじまるこの一文は、恋愛が人生においてもっとも重要であると説き、当時のまた後世の人々に大きな影響を与えた。掲載されたのはキリスト教系女学校の雑誌。

2. 恋愛の福音

加藤直士著

<YDM21454>

横浜 福音舎書店 1894(明治28) 83p

「最も自然的情性なる恋愛は最も自然的発達を遂げたる基督教徒によりて実現せられたり。」

3. 噫有情

フランツ・ボナイゼン著 齊木延治郎訳 <YDM100771>
東京 東華堂 1903(明治36) 164p

西洋の恋愛に関する格言をあつめた本。表紙には袴姿の女学生がアールヌーボー調にえがかれている。

4. 和合相愛男女交際極秘訣 一名近代的恋愛術

勝永徳太郎著 <特102-907>
大阪 尚文館 1912(大正1) 26p

5. 大恋愛学 又は超常識論

澤田純一著 <特105-448>
東京 梁江堂 1912(大正1) 362p

『人生の目的』は絶待的大恋愛観を得入するにあるのみ」

♥自由恋愛を是認すべきか

当初はたからかに恋愛のすばらしさをうたってみたものの、「男女七歳にして席を同じゅうせず」、結婚は親の決めた相手と、といった考え方が主流のこの時代、自由に恋愛を行うことは「自由恋愛」とよばれて賛否両論であった。また、今でいう不倫は法律で「姦通罪」として罰せられたため、人妻との自由恋愛のすえに心中した有島武郎や、華族夫人の駆け落ちなどが話題になった。家制度との間にたつ人々の悩みが、このような議論を巻き起こしたともいえよう。

6. 男女と貞操問題 僕の別居事実と自由恋愛論

岩野泡鳴著 <特101-310>
東京 新潮社 1915(大正4) 281p

「公明正大なのは自由恋愛」

7. 一夫一婦か自由恋愛か

倉田百三著 <367-Ku55ウ>
東京 岩波書店 1926(大正15) 281p

「人格の完成」のためには「多夫多婦の自由恋愛」ではなく一夫一婦が必要と説く。

8. 恋愛論

帆足理一郎著

<546-190>

東京 博文館 1926(大正15) 348p

有島武郎の心中について「純なとか美だとか云ふ言葉を世人が濫用してゐる」が、周囲のことを考えない行動は「如何にも醜の醜なるもので全く不純不美」と批判。

9. 私の恋愛観

東京朝日新聞社編著

<709-77>

東京 協和書院 1936(昭和11) 324p

「自分で夫をきめるやうな者は人間として一番恥ぢなければならない。」と父親に恋人との結婚を反対された読者の質問に対して、「お父様が間違つてゐます」と回答する。

♥Love is best

朝日新聞に連載された「近代の恋愛観」は恋愛至上主義としておおいに人気をよんだ。恋愛至上主義とは、文字どおり恋愛を至上のものとする思想である。恋愛がなければ、人の生は、味気ないものであるけれども、果たしてこれが人生の目的になるのか、至上のものなのか批判も相次いだ。

10. 近代の恋愛観

厨川辰夫著

<517-48>

東京 改造社 1922(大正11) 368p

11. 現代人の恋愛思想

海野幸徳著

<525-194>

京都 内外出版 1924(大正13) 371p

「恋愛は人生に価値のあるものであるが、それは無上でも、絶対でも、乃至、至上でもない。」

12. 恋愛と結婚の書

菊池寛著

<693-111>

東京 モダン日本社 1935(昭和10) 281p

「恋愛は結婚のためには必要なもの」にすぎない。

♥社会主義的自由恋愛

「自由恋愛」賛成派の中には社会主義によるものがあり、ここにまとめた。一夫一婦制度は私有財産を子孫に残すためのものであり、共産主義革命がおこり私有財産がなくなれ

ば一夫一婦制度は壊滅し自由恋愛になる、という考え方である。

13. プロレタリア恋愛観

今野賢三著

<595-264>

東京 世界社 1930(昭和5) 202p

なお『近代の恋愛観』については、「食と恋愛との問題で彼は勇敢に逃げ出している」と批判している。

14. 社会問題叢書 7 自由恋愛と社会主義

守田有秋著

<539-9 -(7) >

東京 文化学会 1925(大正14) 172p

♥戦時中—影をひそめた恋愛論

厳密に言えば「恋愛論」ではないが、戦時中の恋愛・結婚に関する本をあつめた。戦時色が濃くなるとともに、恋愛の自由も影をひそめるようになり、「産めよ殖やせよ」政策によって、優生学的に有利な結婚を低年齢で行うことが奨励された。

15. 国民結婚読本

中村明人、板井武雄著

<799-146>

東京 日本青年教育会 1940(昭和15) 202p

16. 結婚と青年

石丸梧平著

<152.2-I77-2ウ>

東京 潮文閣 1942(昭和17) 294p

17. 結婚新説 恋愛結婚か媒酌結婚か

宗正雄著

<788-126>

東京 錦正社 1940(昭和15) 289p

「媒酌結婚こそ、日本精神の粹であり、吾が国体の精華も茲に基礎を置いて居る」

♥戦後—新しい恋愛

戦争の抑圧が取り除かれ、戦前の様々な考え方が、新しい様相を帯びて、息を吹き返してきた。戦時中おさえられていた社会主義的恋愛論もみられる。

18. 恋愛と結婚の門

岩崎栄著 <a367-50 >
長野 信友社 1949(昭和24) 180p

19. 恋愛社会主義

太田典禮著 <367.6-O81-2ウ>
大阪 文林堂 1948(昭和23) 291p

20. 新しい女性と新しい恋愛

コロンタイ著、増永泰夫訳 <367.6-Ko55ウ>
長野 北信書房 1946(昭和21) 152p

♥恋愛エチケット

自分の恋愛をうまく進めたいと思うのは、誰しも思うこと。男女交際らしきものが認められてきた結果、その手引き書が多数発行された。レディファーストを基本とし、恋愛はかくあるべきというすこし硬めの、マニュアル本のはしりといえよう。

21. 愛の倫理

帆足理一郎著 <a367-1>
東京 東方社 1948(昭和23) 238p

22. 恋愛の盲点

村田宏雄著 <152.1-M965r>
東京 高文社 1956(昭和31) 194p

23. 恋愛の生態

原奎一郎ほか著 <152.1-H191r3>
東京 玄理社 1948(昭和23) 214p

男性が女性と外出する際の注意として「自分の方が『お供』であるという自覚を忘れない」ことがあげられている。

24. 青春エチケット、恋愛・交際のバイブル

諏訪良一著 <152.1-Su794s>
東京 鶴書房 1956(昭和31) 196p

「恋文は心のむすびつき」。当時はラブレターが今よりも重要な役割を果たしていた。

♥純潔はなぜ必要か

純潔... 今や聞き慣れないこの言葉を臆面もなく語っていた時代があった。ゆきすぎた男女交際を事前にふせごとと文部省が「純潔教育」を奨励していたため、男女交際についてこまかく指導している本がある。

25. 禁断の木の実

A. ローテル著 <152.1-cR84k>

東京 ドン・ボスコ社 1956(昭和31) 71p

「ダンスホールは情欲の市であり、魂の屠殺場である」

26. 純潔教育図説

阪本一郎、間宮武、佐藤正著 <367.67-Sa442z>

東京 岩崎書店 1957(昭和32) 281p

「異性と2人きりで同室する場合には、(a)扉や戸を開けておくこと。(b)机を挟んで対座すること。(c)膝をだらしなく崩したりしないこと。(d)身体の触れ合うような座の占め方をしないこと。」

27. 友情と恋愛について答える

堀秀彦著 <159-H647y>

東京 青春出版社 1960(昭和35) 214p

「ほんとうに、永つづきのする幸福を手に入れるまで、お待ちなさい、純潔を手軽に捨てるのを。」

♥恋愛と友情

男女共学が増え、サークル活動に男女が共に参加するようになった世相を反映し、「友情と恋愛の違いは何か」「男女間に友情は成立するのか」といった微妙な問題が多く議論されている。また、サークル活動や青年運動といった社会へのはたらきかけと恋愛が不可分なものとして論じられている。

28. こうありたい男女の交際 友情→恋愛→結婚

中神秀子著 <159.7-N287k>

東京 文理書院 1964(昭和39) 260p

29. 愛するとはどういうことか

平井潔著 <152.1-H473a2>

東京 青春出版社 1957(昭和32) 189p

30. 青年運動における愛情の問題
ぬやまひろし著 <152.1-N998a>
京都 三一書房 1956(昭和31) 184p

31. あたらしい愛
平井潔著 <152.1-H473a-(s)>
東京 青春出版社 1957(昭和32) 136p
若者の座談会では「共通の仕事と同じ目的の中から真の恋愛は発する」というような言葉がみられる。

♥理論より実践一同棲、婚前交渉・・・

高度成長がもたらした豊かな生活、学生運動がもたらしたアナーキーな考え方によって、恋愛観も大きく変化した。しかしこの頃「恋愛論」はあまり多くは出版されていない。「恋愛論」を読み悶々とするよりも、みずから実践していったのではないだろうか。

32. 二人の愛のために 恋愛と結婚の理想
山口圭一著 <US53-132>
東京 東邦出版社 1979(昭和54) 231p
「的はずれの“純潔教育”」「婚前交渉へのアドバイス」

33. 人生をいかす恋愛 あなたの悩みに答える
島影盟著 <H91-16>
東京 白揚社 1973(昭和48) 222p

34. 愛すること
加藤諦三著 <US53-184>
東京 大和出版 1985(昭和60) 209p

35. 手記★同棲
ルック社編集部編 <Y84-951>
東京 ルック社 1973(昭和48) 213p
「こわれやすいがゆえに精いっぱい愛し合っている若者たちの大胆な手記集」

♥マニュアル恋愛と純愛

マニュアルの時代と呼ばれる現代。当然、恋愛の方法に関しても、軽いマニュアルもの

が多数出現した。「恋愛はかくあるべき」という以前の「恋愛論」に比べて、手順をうまくすすめることが主眼となっている。また、そのアンチテーゼとして、「純愛」という言葉も流行した。

36. 社内恋愛講座

小林俊之著

<US53-E116>

東京 WAVE出版 1995(平成7) 199p

37. 恋愛の掟 LOVE&SEX テキスト

秦義一郎ほか編

<US53-E111>

東京 マガジンハウス 1994(平成6) 178p

38. バカゲット ターゲットはイイ男

酒井冬雪著

<US52-G46>

東京 イーハ・トープ出版 1995(平成7) 217p

「営業」「交渉」「契約」とビジネス用語の章立てになっている。操縦しやすい顧客(男)に自分という商品を高く売するための女性用マニュアル本。

39. 恋愛まるごと BOOK

ヤングライフ研究会編

<US53-E43>

東京 高橋書店 1990(平成2) 182p

マニュアル本にはこのようなチャート式が多くみられる。

40. ステキな純愛論

植西聡著

<US52-E232>

東京 ウィーグル 1992(平成4) 188p

「純愛とは打算のない愛である」

♥不倫

「姦通罪」がなくなったためか、恋愛の障害が減ったためあらたな障害を求めてか、いわゆる「道ならぬ恋」を肯定し、煽る傾向が現れた。

41. 大不倫

清水ちなみ監修

<US52-E454>

東京 扶桑社 1994(平成6) 281p

